

## インターバンクの声（2017年8月29日）

週明け東京市場の円相場は、9時過ぎに109円41銭を付けて以降は109円10銭前後でほとんど動きがなくなりました。ロンドン市場もサマー・バンク・ホリデーで休場だったこともあり、円相場だけでなくユーロやポンドの動きも鈍かった。ニューヨーク市場では、朝方には一旦東京市場のドル高値と同水準まで円売りが進んだが、その後は再び円が買い戻されている。

イエレンFRB議長が週末ジャクソンホールでの経済シンポジウムで金融政策についての言及をせず、追加利上げ観測が後退しているとあってはドル売りも仕方ない。ユーロもドラギECB総裁が同じシンポジウムでユーロ高への懸念を示さなかったことが引き続き影響したため、1.19ドル台前半から1.20ドルまであと一步の水準まで買われた。

ユーロの1.20ドル水準自体は、テクニカル上それほど重要なポイントではないが、心理的にはこの水準を超えるかどうか、その後の相場展開に影響する。

円相場も再び今年4月に付けた円高水準に近づいており、年末に向けていよいよ相場が大きく動き出すかも知れない。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。